

5 亜熱帯地域におけるスッポンの 養殖技術の研究—II— 稚魴の加温越冬試験について

1977年12月10日現在

金本自由生、照屋忠敬

スッポン養殖において、稚魴の越冬歩留りが悪いので、それを防ぐため加温試験を行った。

詳細は水産増殖誌に投稿してあるので、ここでは概要を述べる。なお、この研究は指定研究「病害部門」の一環として行なった。

材料と方法

A区：2坪のコンクリート池に10cm程度の砂床をしき、池の上に透明な屋根をかけ、ヒーターで加温して、抜気で水のごれを防いだ。

B区：対照として、同じ型の池に何もしないで、止水のままの池を使った。

材料にはふ化後間もない稚魴を使用し、第1期試験は1976年12月6日～1977年3月16日、第2期試験は同3月16日～5月20日まで行なった。

結果と考察

- 1) 加温したA区では開始時の平均体重3.31gから第1期試験終了時15.9g、第2期試験終了時32.27gとそれぞれ約5倍、10倍のびがあったのに対し、加温しないB区では3.23gから、それぞれ5.25g、19.4gと約1.6倍、6倍にのびたにすぎない。
- 2) 病気で死亡したスッポンが多かったが、第1期、第2期試験とも、A区の方の歩留りが15.2%、95.5%とB区の8.3%、41.7%を上まわった。
- 3) 水質は加温によってさほど悪化しなかったが、これは抜気のためと思われる。
- 4) 摂餌量は水温に左右される様で、加温した方としない方で摂餌量にA区1,522.7g、B区211.1gと大差があった。
- 5) 密度やスッポンの大きさの関係もあろうが、加温終了後の第2期試験ではB区の方が、日間増重率、餌料転換効率ともA区より良くなっていた。